◇地域活動報告◇

恩納地区タカセガイ中間育成礁管理技術指導

担当普及員　平　手　康　市

1. 現　状（概要等）

平成6年度から7年度にかけて沿岸漁場整備開発事業により、恩納村屋嘉田潟原地先にタカセガイ中間育成礁（53基）が設置された。この中間育成礁は県水産試験場によって研究されたタカセガイの中間育成技術を導入して造成された。

2. 目　的

タカセガイ中間育成礁の管理技術および中間育成終了時の取り上げ作業を恩納村漁協貝類生産部会に指導した。

3. 協力者

恩納村漁協　　比　嘉　義　視
恩納村漁協貝類生産部会
水産業改良普及所　近藤普及員
宮古支庁水産課　鳩間普及員

4. 活動方法

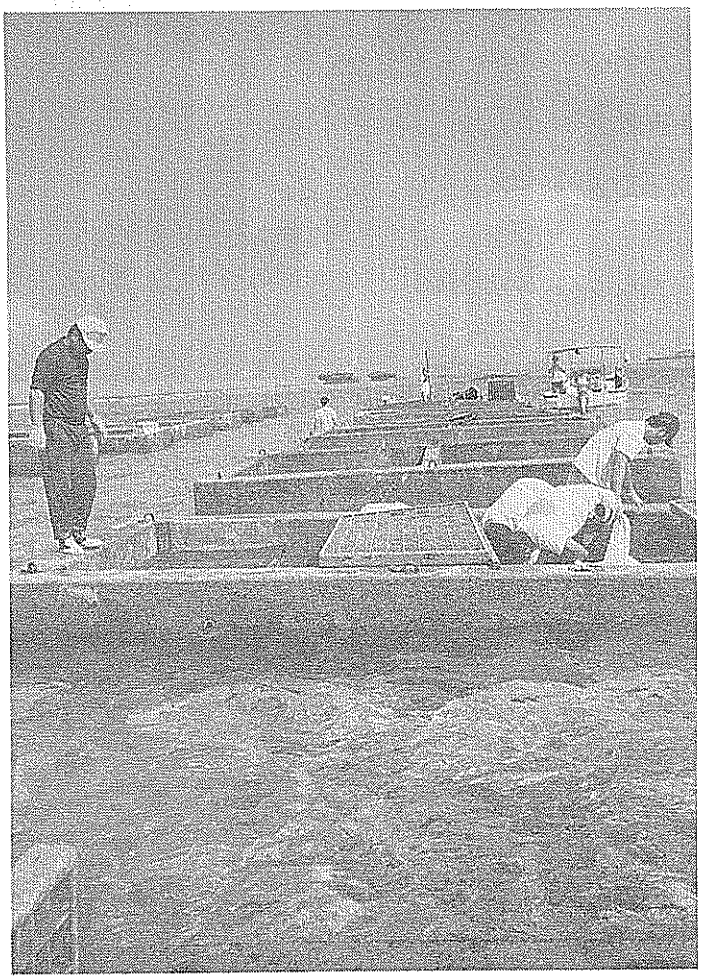
恩納地区タカセガイ中間育成礁53基に、県栽培漁業センターから供給されたタカセガイ種苗（平均殻径：6.15㎜）約20万個を平成7年11月10日および平成8年1月24日の2回に分けて放流した。その後、恩納村漁業協同組合と同漁協貝類生産部会に中間育成技術指導を行った。平成8年10月24日に中間育成を終了し、恩納村漁業協同組合と同漁協貝類生産部会と共に種苗の取り上げを行った。

5. 結　果

平成8年10月の取り上げ時に中間育成種苗（平均殻径：25.40㎜、平均殻重量：5.35ｇ）約6万個を得た。また、中間育成歩留まりは約27.88％であった。中間育成礁への放流時期が遅れたこと、2回に分けて放流したこと、大型の種苗が中間育成礁の外に移動していることが確認されていることを考慮すれば実際の歩留まりおよび成長量は今回の結果をさらに上回る事は確実で、現在、標識放流法によって脱出群の追跡を行っている。

6. 次年度への展開

恩納地区タカセガイ中間育成礁におけるタカセガイ中間育成技術指導は、今回で2ケ年を経過し、一応、予定の効果を得ることが出来た。しかし、引き続き同様の指導を行い継続して同じ結果が得られるかを確認する必要がある。また、中間育成中に大型タカセガイが育成礁外へ脱出することが確認されているが、その詳細な経過については確認できていない。従って、現状では、中間育成礁からの取り上げのみを中間育成の成果として評価しているが、実際には、育成礁から脱出したタカセガイの漁場への加入効果は殻径を考慮すれば取り上げ個体以上であると考えられる。従って、真の中間育成の成果を知る為には、中間育成礁内および礁外の放流タカセガイの動向を調査する必要がある。



恩納地区タカセガイ中間育成場での取り上げ作業（上、下）